

岐阜県の過去の地震災害状況

防災課

R3. 10. 1 現在

①岐阜県下に被害を与えた主な内陸型地震

西 暦 (日 本 歴) 年 月 日	震 源	規 模	主要被災地	被 害 概 要
745. 6. 5 (天平 17. 4. 27)	美 濃 西 部	M 7.9	美 濃 ・ 摂 津	美濃で正倉、仏寺、民家の倒壊多し。
762. 6. 9 (天平宝字 6. 5. 9)	美 濃 東 部	M 7.4	美 濃 ・ 飛 騨 信	詳細不明なるも被害のあったことは疑いなし。
1185. 8. 13 (文治 1. 7. 9)	琵琶湖西部	M 7.4	近 江 ・ 山 城 大	美濃にも大地震(京都白川辺の被害大)
1586. 1. 18 (天正 13. 11. 29) 飛騨地震 (天正地震)	詳 細 不 明 (飛 騨 白 川 一 長 良 川 の 線)	M 7.6	飛 騨 ・ 美 濃 尾 張	白川谷で山崩れ、城、民家 300 余戸倒壊、埋没、多数圧迫死。大垣壊家多し、益田郡竹原郷大威徳寺全滅。(尾張長島被害大、近江長浜でも数十人圧迫死)
1662. 6. 16 (寛文 2. 5. 1)	琵琶湖西岸	M 7.6	山 城 ・ 大 江 大	美濃大いに震い、人蓄屋舎の被害大し。
1819. 8. 2 (文政 2. 6. 12)	琵琶湖東部	M 7.4	伊 勢 ・ 美 濃 近 江	美濃西南部の被害大きく、家屋の倒壊、人畜の死傷あり。高須輪中の堤防破壊するもの多し。高山でも強震。(近江八幡、安土付近での被害大)
1833. 5. 27 (天保 4. 4. 9)	美 濃 西 部	M 6.4	美 濃 西 部	武儀郡上牧地方大地震あり。大垣 9 日より 13 日まで地震、山崩れ、人畜多く死す。(京都、伊那でも強震)
1847. 5. 8 (弘化 4. 3. 24) 善光寺地震	信 濃 北 部	M 7.4	信 濃 ・ 越 後 飛 騨 ・ 美 濃	県下いたる所で感じ、余震連日に及ぶ。地面道路に所々潰裂し、家屋倒壊あるも詳細不明。飛騨保木脇村山崩れ、人家 2 戸埋没、数十人圧迫死。(高田、松本、上田付近の被害大)
1855. 3. 18 (安政 2. 2. 1)	飛 騨	不明	飛 騨 西 部	飛騨白川、大牧、保木脇に地震。保木脇で山崩れ、壊家 2、死者 12 人。
1858. 4. 9 (安政 5. 2. 26) 飛越地震	飛 騨	M 6.9	飛 騨 ・ 越 前 越 中 ・ 加 賀	飛騨北部で全壊 319、半壊 385、死者 203 人、山崩れ甚だし。(越中立山温泉付近で山崩れ、常願寺川を堰止め、後に決壊し、大洪水)
1891. 10. 28 (明治 24. 10. 28) 濃尾地震	本 巢 郡 根 尾 村 水 鳥	M 8.0	美 濃 ・ 尾 張	美濃で死者 4,990 人、負傷者 12,783 人、全壊 50,125 戸、半壊 35,085 戸、全半焼 4,451 戸。飛騨、郡上、恵那郡ではほとんど被害なし。(全国被害：死者 7,273 人、全壊 142,177 戸、半壊 80,184 戸、全半焼 4,860 戸で日本震災史上関東地震に次ぐ記録であった。)
1909. 8. 14 (明治 42. 8. 14) 姉川地震	滋 賀 県 姉 川 流 域	M 6.9	滋 賀 県 姉 川 ・ 虎 姫 付 近	岐阜市西部で死者 6 人、重傷 18 人、全壊 51 戸、半壊 138 戸。(滋賀県虎姫付近の被害大。湖岸沈下)

西 暦 (日 本 歴)	震 源	規 模	主要被災地	被 害 概 要
1961. 8. 19 (昭和 36. 8. 19) 北美濃地震	石 川 県 南 部	M 7.0	岐 阜 ・ 福 井 石	石徹白地方最も甚だしく、山崩れ、崖崩れ、道路損壊あり。死者 2 人。 (全国被害：死者 8 人、家屋全壊 12 戸、山崩れ 99 ヶ所)
1969. 9. 9 (昭和 44. 9. 9) 岐阜県中部地震 (美濃中部地震)	岐 阜 県 中 部	M 6.6	岐 阜 県 中 部	郡上郡、益田郡で山崩れ、崖崩れ多発。落石による道路損壊甚だし。死者 1 人、負傷者 10 人、全壊 1 戸。
1984. 9. 14 (昭和 59. 9. 14) 長野県西部地震	長 野 県 西 部	M 6.8	長 野	坂下町、付知町、加子母村、下呂町など近接する町村で家屋の損壊が 48 戸あった。全壊 1 戸、王滝村に大きな被害をもたらした。死者 29 人、負傷者 10 人、建物全壊・流出 14 戸、半壊 73 戸、一部破損 565 戸、道路破損 258 など。死者及び建物流出は主として王滝川の流域などに発生した大規模崖崩れと土石流によるものである。

(注) 県下又は近傍で発生した地震で、県下に死者が出たもの又は死者が出たと考えられるものを掲上した。

②岐阜県下に被害を与えた海溝型地震

西 暦 (日 本 歴)	震 源	規 模	主要被災地	被 害 概 要
887. 8. 26 (仁和 3. 7. 30)	東 海 道 沖	M 8.6	五 畿 七 道	美濃大地震 (京都の被害大、余震 8 月末まで)
1096. 12. 17 (永長 1. 11. 24)	東 海 道 沖	M 8.4	畿 内 ・ 東 海 道 ・ 南 海 道	詳細不明
1498. 9. 20 (明応 7. 8. 25)	東 海 道 沖	M 8.6	東 海 道 全 域	詳細不明
1707. 10. 28 (宝永 4. 10. 4) 宝永地震	東 南 海 道 沖	M 8.4	五 畿 七 道	美濃で垣破損 6,900 余間、潰家 400 戸、破損家 473 戸あり。 (全国被害：死者 4,900 人、全壊 29,000 戸)
1854. 12. 23 (安政 1. 11. 4) 安政東海地震	東 海 道 沖	M 8.4	東 海 ・ 東 山 南 海	4 日七ツ頃、高須、大垣、加納、不破郡、土岐郡、恵那郡で家屋倒壊多し。
1854. 12. 24 (安政 1. 11. 5) 安政南海地震	南 海 道 沖	M 8.4	畿 内 ・ 南 海 東 海	5 日七ツ過ぎに又地震あり。余震引き続き、1 ヶ月にわたり数十回あり。 両日の地震の被害は、美濃南部でひどく、美濃北部へ行くほど軽かった。 (全国被害：死者 4,000 人、全壊 18,300 戸、震火水による損失家屋 60,000 以上)
1944. 12. 7 (昭和 19. 12. 7) 東南海地震	熊 野 灘	M 8.0	静 岡 ・ 愛 知 三 重 ・ 岐 阜	西南濃地方を中心に死者 13 人、全壊 900 余戸。 (全国被害：死者 998 人、全壊 26,130 戸、流失 3,059 戸)
1946. 12. 21 (昭和 21. 12. 21) 南海道地震 (昭和南海地震)	潮 ノ 岬 沖	M 8.1	中 部 以 西 各 地	西南濃地方を中心に死者 14 人、全壊 586 戸 (全国被害：死者 1,339 人、全壊 9,070 戸、流失 1,451 戸、焼失 2,598 戸)